



# 【実施報告書】

# 海の祭ismプロジェクト 子供向けオンラインプログラム

一般社団法人マツリズム

最終更新日：2022年1月13日



# 目次

- 報告書要点 (p.2)
- プログラム概要 (p.3)
- 祭り当日のプログラムについて (p.4-8)
- 参加者の感想 (p.9)
- PRについて (p.10)
- 振り返り/コンテンツについて (p.11-12)
- 振り返り/集客について (p.13-14)
- 実施報告会について (p. 15)

## 目的・目標に対する成果

### <目的①>

**琴浦精霊船行事を題材として「海の祭」とその置かれている状況について関心を持つ**



- ・ハロウィンと結びつける事で類似性から対象へ接近しやすくなり、子供達が自然と能動的に観察し考える事ができた
- ・過去と現在を同じ条件（映像）で並列に見る事で、生の体験では察知する事が困難な課題を認識する事ができた

### <目的②>

**自分の地域やゆかりのある祭りや盆行事に関心を持つ**



- ・グループディスカッションで一人ひとりが主役となり、自分の好きなお祭りや考えを仲間へ共有する事で、自分の体験を思い出しそれについて考える機会となった

### <目的③>

**目的①、②を通して、琴浦精霊船行事、もしくは自分がゆかりのある祭りや年中行事の維持発展に対して、自身が何らかの役割を担う必要性を認識する**



- ・保護者には目的①②を懐かしんだり考えながら③についても論理的に考える人がいたが、子供達には年齢的に難しかった
- ・保護者（大人）が言語的に理解している状態を作る事はできたので、対話を通じて子供達の認識へ繋がる事に期待したい

### <目標>

**参加人数20人**



- ・子供22名とその保護者が参加

# プログラム概要

## プログラムの流れ

事前課題と佐渡の  
海産物を送付

オンラインイベント

事後学習シート

## 参加対象者

小学生

## コンテンツ要素

### お楽しみポイント

#### ①アタマとカラダ（五感）を使って学ぶ

- 視覚（映像）聴覚（音楽/海の音）嗅覚（薫の香）触覚（薫の手触り）味覚（佐渡の海産物）を刺激しながら学ぶ
- みんなで一緒に声を出して、一緒に踊って身体を動かして、エネルギー発散

#### ②オンラインでも佐渡へ旅行した気分になる

- 映像や音を通じて佐渡の祭と自然を感じ、家では美味しい佐渡の海産物を味わう
- 佐渡に行かないと会えない現地の祭の担い手さんとお話

#### ③多様な人との交流できる

- 全国の祭を飛び歩くマツリテーター大原と民俗学者が案内人
- 違う地域の参加者同士でグループディスカッション

### 学びポイント

#### ①触れる事が貴重な祭からお盆の大切さを知る

- 現存する映像がほとんどない琴浦精霊船行事の映像を見ながら専門家から学ぶ事ができる
- ハロウィンと比較して日本のお盆を学ぶ事で、お盆や祭など伝統文化に「意味」がある事を知り、何故伝統文化が日本人にとって大切かを考えるきっかけとなる

#### ②レクチャーと主体的な議論から祭を考える

- 祭の直面する課題（人間由来・環境由来）を知り主体的に議論する事で、課題解決のため自分達にできる事を考え、外へ向けて発信できるようになる

#### ③祭を通じて海を多角的に知る

- 日本には、海の向こうに「あの世」があり海はこの世とあの世の境界線であると信じられてきた文化がある事を学び、楽しいだけではない信仰対象としての海を知る
- 祭（文化的豊かさ）の直面する環境由来の課題として海の変化を知る

# 当日のプログラムについて

## イベント概要

イベント名称	お祭り先生おしえて！日本の伝統文化～佐渡の祭に学ぼう！～
開催日時	2020年8月22日
開催場所	オンライン
参加対象者	小学生
参加者数	子供22名 + 保護者
プログラム関係者	一般社団法人マツリズム 加藤大貴氏（教育学研究者） 一般社団法人アルバ・エデュ、サドテレビ

## 実施内容

### 【授業内容】

- ・夏の風物詩、お盆や祭りを探してみよう！
- ・クイズや実際に声を出してステップを踏んで踊りを交えて、お祭りを楽しく学んじよう！

### ◆当日授業◆

講師：マツリズム大原学、民俗学研究者、佐渡の祭りの担い手

### 【1限目：10:00～10:50】

- ・新潟県の離島「佐渡」で行われる100年近く続く海の祭り「琴浦精霊船行事（ことうらせいれいせんぎょうじ）」とは？
- ・映像や写真、祭りの担い手へのインタビューを通してアタマとカラダを使って迫ります。
- ・お祭りの専門家のお話や踊りの練習を通して、お盆のことを学んでみよう。

### 【2時限目：11:00～12:00】

- ・琴浦精霊船行事やみんなが知っているお祭りを通して、自分が大切にしたい「祭のチカラ」を見つけてみましょう。

## 事前送付物

事前事後ワークシート、佐渡の海産物（イカ/わかめ/めぎす）、祭で使用する藁、手紙を送付しました。

### <事前事後ワークシート>

オンラインおうち学校特別授業「お祭り先生おしえて!日本の伝統文化」(2020年8月22日実施)  
事前・事後学習シート(作成 一般社団法人マツリズム)

【1~3は授業がはじまるまでにこたえてください】  
1. この船は何のために使われるでしょうか。  


2. この船の名前はなんでしょうか。

3. お盆は「ハロウィン」と似ているところがあります。それはどこでしょうか。あなたやご家族がお盆にしていることを考えながら、答えてみましょう。

【4,5は授業が終わってからこたえてください】  
4. 「茅渚精霊船行事(ことうらせいれいせんぎょうじ)」のどんなところにきょうみをもちましたか。

5. あなたが好きなお祭りとその理由をおしえてください。  
好きなお祭り  
  
好きな理由

氏名  住んでいる都道府県

### <手紙>



### <祭で使用する藁、佐渡の海産物>





# 当日のプログラムについて

## 当日の様子

### 身体を動かしながら授業を進行



### 海の祭を通じて日本のお盆を知る

琴浦精霊船行事がすごい！と思うところ

8-13 迎え火  
あのひのごんせん  
あの世からの船

8-14-15  
お盆  
死者を  
もてなす

海=あの世

8-16 送り火  
このひのごんせん  
この世からの船

- お盆の流れがわかる！  
...霊がいつ来ていつかえるか
- 今でも海にわらのふねをだし  
火もつける！  
...てづくりのざいりょう・わら  
手ぬきしないていねいさ

※京都五山の送り火 大文字

### 地元の祭の担い手との交流

#### 琴浦の先生 藤田数好(ふじた・かずよし)先生

「琴浦精霊船行事」はいつから始まったのですか？

90ねんまえにはあった。戦争(せんそう)よりもまえ！

なぜこのお祭りをやるのですか？

お盆に箱からやってくるごせんぞさまを  
「ごんせん」でおくりむかえするため。

お祭りの思い出はありますか？

小学生のときはなんでやるのかわからなかった。  
でもだんだんたいせつさがわかっていった。

このお祭りでは一番の見どころ(すてきなところ)は？

ごせんぞさまをうやまう(おいわいする)ことの  
たいせつさがわかること。



### 琴浦と海の関係動画を学習



### 現在過去の祭動画を視聴して比較

#### 琴浦のお祭りの「なやみ」



30年前の  
えいぞうを見て  
くらべてみよう

### グループに分かれてディスカッション



# 当日のプログラムについて

## 学びを深める取り組みについて

### 【プログラム構成の基本方針】

「リアル体験の代替」を目指すのではなく、形式・内容ともに「オンラインだから可能」なプログラムとする

### 【具体的なプログラムの工夫点】

#### 1.形式面

##### (1)祭りの映像の活用

：規模の大きかった過去の祭りの映像と昨年度の祭りの映像を同時に用いることで、単に祭りの雰囲気味わうだけではなく祭りの様子の変化を客観的に比較考察できるように

→祭りの規模の縮小や海の様子の変化を実感し課題意識を醸成

##### (2)視覚資料を駆使した専門家の解説

：祭りの専門家による解説の際に日本・世界各地の祭りを視覚的に提示することで、琴浦の祭りを理解するうえで助けとなる情報についても単調にならずに理解を進めることが可能に

→地域内外の祭りのつながりを実感し、祭りやそれを支える社会・環境の問題を考えるきっかけを与える

##### (3)ディスカッションの導入

：各自自宅でリラックスした環境の中、子どもが琴浦の祭りや自分の経験した祭りのことを考え（保護者とも話しながら）、他のメンバーと話し合う時間を設定

→各地の祭りの楽しさの根幹にあるものを参加者が主体的に探究

##### (4)地域を想起できる「ギフト」の送付

：祭りに関する事前課題、当地のお土産品、実際の祭りに使う藁を事前に送付し、講座の舞台となる琴浦（佐渡）への思いや関心を高めた状態で講座に臨めるように

→海のある風景やそれを舞台とした祭りを「実際に体感してみたい」という思いを、子ども・保護者双方に生起



# 当日のプログラムについて

## 学びを深める取り組みについて

### 【実際の工夫点】

#### 2.内容面

##### (1)「海」から祭りの理解を深めていく展開

：コロナ禍で直接的な体験が制限される中で、琴浦の祭りの舞台である「海」の光景や祭りにおける意味をコンテンツの主要部で扱うことで、海への関心や憧憬を高める

→祭りにとって欠かせない海を美しく保っていきたいという意識を喚起

##### (2)参加者の生活経験の重視

：各地から参加する子ども・保護者それぞれに、個々の「祭りの経験・思い出」の履歴がある。ディスカッションにおいてそれらを参加者同士で議論することで、祭りの楽しさや大切さの共通項をさぐり、琴浦の祭りやその精神性を自分たちと地続きのものとして考えることを促す

→「自分とかわりのある大切なもの」として、祭りへの理解を深めていく必要性を認識できるように

### 【成果】

参加者の感想からは、上記の構成を取ったことで以下のような成果が生まれたと考えられる。

- ・受講する地域に関わらず、参加者が琴浦の祭りを現地で味わっているかのように入り込むことができた。
- ・加えて、単なる「祭り体験」では十分に目を向けることがなかった周辺知識（祭りの歴史、国内外の祭りとの関連性）についても理解を深められた。
- ・知識内容は参加者の年齢によってはやや高度であったものの、子どもと保護者が協力して同じトピックを考えるきっかけとしても機能した。
- ・子どもの参加者は五感を通して楽しみ、保護者は知識や海の景観から日常得られない刺激を受けるプログラムとなった。

# 参加者の感想

## コメント（子ども）

- ・佐渡の祭りのことがよくわかったから楽しかった。
- ・船でむかえに行くところが面白かった。
- ・**佐渡の海はどうなるのかが気になった。**
- ・**海で泳いだことがなかったけど佐渡の海で泳いでみたい。**
- ・藁がもらえた。藁で船をつくってみたい。
- ・お盆とハロウィンが似ていることを知る事ができて良かった。
- ・花火はきれいだからやっているだけじゃない事が分かった。
- ・**海が汚くなるといやだと思った。**
- ・日本の歴史は本当にたくさんある、という事が分かった。
- ・オンラインに慣れていなくて飽きてしまった。
- ・どうして舟に帰って行く人（ご先祖様）の姿が見えないのか、帰らないでずっと一緒にいてくれたらいいのと思った。
- ・佐渡の祭りに行ってみたいとなった。

## コメント（保護者）

- ・お盆という行事の本質を知る事ができた。
- ・その後、イベントについて子供と色々話題になったので楽しかったのだと思う。
- ・丁寧なワークショップで学びも多く楽しかったが、小1の息子には少し難しかった。
- ・**琴浦の海がとても綺麗で、遊泳できるのならぜひ遊びに行きたい。**
- ・行ったことのない地域に興味を持てるのが良いと思った。
- ・**海産物のお土産付きでとても美味しかったので、ぜひ佐渡へ行ってみたいという気持ちが強くなった。**
- ・複数の講師が一生懸命子供に向き合ってくれた。
- ・子供が自力で調べられて自主性が得られ達成感がある事前課題だと良かった。
- ・自粛で外に出られないので、家の中で踊れるのが有難かった。
- ・**前半は顔出しも発声も嫌がっていたが、グループ討議で先生に誘われ、自分の思いを話そうと「海」「祭」「お盆」を考えている様子が嬉しかった。**



## 良かった点

- ・ 子供は、「琴浦の祭りがすごかった」等ポイントで認識してくれた
- ・ 「海が汚くなってしまったら嫌だと思った」と感想を述べた子供が多く、海の祭や佐渡の魅力から海の問題を自分ごと化する事ができた
- ・ 保護者（大人）が言語的に分かっている状態を作る事ができた
- ・ 具体的な琴浦精霊船を見てもらいつつ、お盆やお祭りについて幅広い年齢層間で学べたのが良かった（抽象的なものと具体的な体験）
- ・ ハロウィンと結びつけることで類似性から祭りやお盆を学ぶ事ができ、子供達の印象に残り、全体の中でも理解を助ける補助線となった
- ・ 昔の映像と比較がする事で、課題に気づいてもらう事ができた
- ・ オンラインだからこそ過去と現在を同じ条件（映像）で並列に見る事ができて、ちゃんと昔を知ることができた（リアルイベントだと生身の体験がどうしても勝ってしまう）
- ・ コロナ禍だからこそ元気がなくなっている状況で、踊れて元気になった
- ・ 藁を送付し、現地の匂いが届けられるような生きたものでその地域の暖かさを感じてもらえた
- ・ グループディスカッションの時間で一人一人が話せてアウトプットができ、学びにもつながった
- ・ ディスカッション時ファシリテーターがしっかり「待てる（子供の言葉をちゃんと聴ける）」事ができ、子供達が自発的に考え発言する場となった
- ・ グループディスカッションがある事で顔出し声だししたくなかった子供が、自発的に話して顔を見せて踊る等一人ひとりが輝く時間を作ることができた
- ・ 子供向けオンライン授業に実績のある団体が協働してくれたおかげで、出欠や細々したやり取りを任せる事ができ進行に注力する事ができた
- ・ 地元の人がリアルに関わりを持ってくれたおかげで子供達や保護者も生の声を聴く事ができ、佐渡のファンを増やす事へも繋がった
- ・ コンテンツ制作に教育学研究者が協力してくれた事で、ねらいの設定から内容まで深く探究/学習できるものを作る事ができた



## 改善点

- ・「知識を求めるタイプ」「知らない世界を知りたいタイプ」2つのモチベーションで子どもを受講させる保護者が多く、前者を求める層には消化不良になってしまったかもしれない
- ・講座本編ではこまごまとした知識以上に、祭りの「すごさ」「面白さ」を味わってもらう（＝情動レベルで祭りへの関心を高めてもらう）ことが目的であることを事前に明確にメッセージしておくべきだった
- ・事前課題は「想像してもらう」ことを狙って作ったが、「調べられない」という声があり、イメージしてもらう事を目的とした旨事前に伝えるべきだった
- ・事前送付物をもう少し活かし本プログラムと連動できた可能性がある
- ・地域との調整により、結果的に現地報告会（or 出前授業）ができなかった
- ・チーム内で役割分担の線引きがしっかりできておらず、一部スタッフに役割過多が起きた、それぞれの役割を明確にできると良かった
- ・集客に苦労した
- ・2時間目のグループワークシュミレーションをもっと練っておくと良かった
- ・昔の映像の入手に時間がかかり編集作業がギリギリになってしまった
- ・当日運営でミスをしたスタッフのカバーができなかった。全体が臨機応変に対応すべきだった
- ・協働先と当日運営について認識齟齬があった。事前に関係者全体でのリハーサルをして確認する事が必要
- ・一度も対面せず遠隔でのやり取りは、相手然り地元コミュニティの温度を掴む事が大変難しく、トラブルが多く大変だった
- ・プロジェクトのサイト選定においては、地域の窓口の方だけでなく地域全体と協力できるかをじっくり考慮すべきだった
- ・「オンラインプログラム」が一体何なのかが、地域には誤解されて伝わっており、紙媒体で回るよう工夫はしたが、もっと対策を練っておくべきだった
- ・地域とのやり取りが難しかった結果として、取り上げられたメディアがなく公なPR価値としてはゼロになってしまった



# 【振り返り】集客について

## 告知ページ

一般社団法人アルバエデュの協力のもと集客を実施。告知ページにてaのデザインで集客を開始したが、日本財団職員と相談の上bのデザインに変更。マツリズムからの積極的声かけも行い、22名の子どもとその保護者に参加してもらえた。



## 参加した子供の属性

No.	年齢	居住地	性別
1	4	神奈川県	女性
2	5	京都府	男性
3	6	埼玉県	男性
4	6	神奈川県	女性
5	7	東京都	女性
6	7	東京都	男性
7	7	東京都	女性
8	7	不明	女性
9	8	東京都	男性
10	8	東京都	女性
11	8	東京都	男性

No.	年齢	居住地	性別
12	8	東京都	男性
13	9	東京都	男性
14	9	東京都	女性
15	9	東京都	女性
16	9	東京都	男性
17	10	東京都	男性
18	10	神奈川県	男性
19	11	富山県	女性
20	11	大阪府	女性
21	11	広島県	男性
22	14	東京都	男性

## ➤ キッズウィークエンドでの集客ページ

kids weekend イベント スクール 主催者向け 新規登録 ログイン



2020年8月22日(土) 10時00分～12時00分

お祭り先生おしえて！日本の伝統文化～佐渡の祭に学ぼう！～

アルバ・エデュ オンラインうち学校

◇ 6歳～13歳  
📍 オンライン  
¥ 0～

いいね

お祭り先生おしえて！  
オンライン特別授業  
8/22(土) 10:00～  
佐渡の祭からわかる、お盆とハロウィンの意外な関係!?

---

**体験できること**

特別授業『お祭り先生おしえて！日本の伝統文化～佐渡の祭からわかる、お盆とハロウィンの意外な関係～』クイズや実際に声を出してステップを踏んで踊りを交えて、お祭りを楽しく学んじょう！

◆当日授業◆  
【1限目：10:00～10:50】  
・新潟県の離島「佐渡」で行われる100年近く続く海の祭り「琴浦精霊船行事（ことうらせいれいせんぎょうじ）」とは？  
・映像や写真、祭りの担い手へのインタビューを通して、アタマとカラダを使って迫ります。  
お祭りの専門家のお話や踊りの練習を通して、お盆のことを学んでみよう。

【2時限目：11:00～12:00】  
・琴浦精霊船行事やみんなが知っているお祭りを通して、自分が大切にしたい「祭のチカラ」を見つけてみましょう。

【講師紹介】  
一般社団法人マツリズム  
「祭りの力で人と町を元気に」をモットーに、担い手不足に悩む地方の祭りと都市部の若者や外国人をつなげ、祭りの次代への継承と地域活性化を試みる「ツーリズムMa-tourism」を軸に、全国で活動しています。これまで40回以上、のべ500人以上の若者に祭の体験プログラムを提供しています。

◎日時：8月22日（土）10:00～12:00  
◎対象：小学生  
◎定員：30名  
◎受付終了日：8月21日正午  
◎講師：一般社団法人マツリズム  
◎授業料：お祭りで使用する葦、佐渡の美味しいお土産付き・・・1000円（満席！）  
おみやげなし・・・参加費無料

※この授業は  
・事前にワークシートへの記入があります。  
・ワークシートとお土産を8/20頃までにお届け予定です。

<お土産内容>  
・佐渡の美味しい海産物など ・伝統行事で実際に使用する葦

<ワークシート内容>  
・調べたり想像したりご家族とお話をしたりして記入していただくワークシートです。  
(シート1枚)

【授業内容】  
夏の風物詩、お盆や祭りを探ってみよう！  
クイズや実際に声を出してステップを踏んで踊りを交えて、お祭りを楽しく学んじょう！

◆当日授業◆  
【1限目：10:00～10:50】  
・新潟県の離島「佐渡」で行われる100年近く続く海の祭り「琴浦精霊船行事（ことうらせいれいせんぎょうじ）」とは？  
・映像や写真、祭りの担い手へのインタビューを通して、アタマとカラダを使って迫ります。  
お祭りの専門家のお話や踊りの練習を通して、お盆のことを学んでみよう。

【2時限目：11:00～12:00】  
・琴浦精霊船行事やみんなが知っているお祭りを通して、自分が大切にしたい「祭のチカラ」を見つけてみましょう。

## イベント概要

<b>イベントタイトル</b>	海の祭2021 ～いま、これから～ (海の祭ismプロジェクト2020報告会)
<b>目的</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海の祭ismプロジェクト2020として、リアルな祭がない中でどんなチャレンジをしてきたかを伝える</li> <li>2. マツリズムが「海の祭」に対してどのように向き合い、どのように関わってきたかの報告と、それらを通じて何を学、何を残していきたいと考えているかを報告する</li> <li>3. 参加者に、海の祭が持つ魅力・可能性や、海の祭ismプロジェクトの面白さを感じてもらう</li> </ol>
<b>日程</b>	2021年7月22日（祝・海の日）
<b>開催方法</b>	YoutubeLiveを活用したオンライン配信
<b>配信会場</b>	マリンスクエア 2F（静岡県熱海市渚町 7 - 5）
<b>参加人数</b>	約70名
<b>協力</b>	日本財団「海と日本プロジェクト」

## 報告の様子

